はにい　校長先生の思い

平成28年3月22日

ある中学校の校長室です。

色とりどりの折り紙で折られた鶴。画用紙に描かれたチューリップの花。校庭から拾ってきたと思われる木の切れ端やどんぐり。

テーブルの上に飾られたこれらの品々。

校長先生は、その中の一つを取り上げ、

「これは、○○年の卒業生の□□さんが作った鶴です。」「これは、○○年の・」と、次々、作品を取り上げては生徒の名前をあげていきました。

「そう、この作品を描いた生徒を取りまく環境が厳しくてねえ、こんな可愛い絵を描くとは思わなかった。」と、そこに飾られている一つ一つの作品にまつわる子どもの思い出を静かに語る校長先生。

その時、気付いたのです。

昇降口を入った時に、温かく迎え入れていただいていると感じた、その感覚。
それは、校長先生そのものでした。
校長先生の思いが、学校の空気になって
生徒や職員、そして、学校を訪れる人を
温かく包んでいるのだと。

校長室に足を運び、作品を残していった生徒たちは、きっと、この空気に「安心」という匂いを感じただろうと・・・。

もうすぐ新しい学年が始まります。

校長先生も卒業です。